

## 磐田を 知りたい！調べたい！（小・中学生向け）

# 磐田の祭り

「まつり」とは、神や霊<sup>れい</sup>に対して、お供え物<sup>そな</sup>や歌、おどりをささげて祈りや感謝をし、神をなぐさめる<sup>しゅうきょう</sup>宗教的な儀式です。毎年、季節の祭りが磐田市の各地区で行われます。たくさんある市内の祭りの中で、主な祭りについて調べてみましょう。

電子図書館で見ることができる「いわたふるさと散歩 磐田文化財マップ」（文化財課発行）には、各地区で行われる祭りの簡単な説明と写真がのっています。

### みつけてんじんはだかまつり 見付天神裸祭

## 国指定重要無形民俗文化財

磐田地区の見付にある見付天神（正式には矢奈比売神社<sup>やなひめ</sup>）は、平安時代に書かれた法律の本「延喜式<sup>えんぎしき</sup>」に名前がのっている古い神社です。裸祭は、江戸時代の「遠々見ます<sup>ととお</sup>」という書物にも紹介され、平安時代から行われていたともいわれる祭りです。毎年、旧暦8月10日の直前の土・日曜日に行われます。裸祭の6日前に元宮天神社<sup>もとみやてんじんしゃ</sup>での「祭事始<sup>さいじはじめ</sup>」、「御斯葉おろし<sup>みしば</sup>」（見付地区を清める神事<sup>しんじ</sup>）、3日前に福田海岸での「浜垢離<sup>はまごり</sup>」（心身を清める神事）、前夜に「御池の清祓<sup>みいけ きよはら</sup>い」（境内を清める神事<sup>けいだい</sup>）、当日の午前中に「例祭<sup>れいさい</sup>」（祝詞と浦安の舞の奉納<sup>のりと うらやす まい ほうのう</sup>）、そして、「裸祭」が18時ごろから始まります。腰蓑<sup>こしみの</sup>をつけた男たちが、梯団<sup>ていだん</sup>（道を練り歩くグループのこと、見付28町は、4つの梯団に分けられる）ごとに見付地区内を練り歩き、見付天神の拝殿<sup>はいでん</sup>へ入り、「鬼踊り<sup>おにおど</sup>」が行われます。0時ごろ、神輿<sup>みこし</sup>が淡海国玉神社（総社）にむけて出発します。そして、次の日の夕方に「還御<sup>かんぎょ</sup>」（神輿が見付天神へ帰る）が行われ、8日間にわたる祭りが終わります。



【磐田市ホームページより】

### 見付天神裸祭について調べるには

- ・「見付天神裸祭 天下の奇祭」 磐田市文化財課発行のパンフレット、電子図書館にも登録あり
- ・『はだかまつり 見付天神裸祭ガイドブック』（中央）
- ・『見付天神裸祭 国指定重要無形民俗文化財』見付天神裸祭手引書編集委員会／編（全館）
- ・DVD「見付天神裸祭 国指定重要無形民俗文化財」見付天神裸祭保存会・見付天神裸祭映像記録作成委員会（全館・館内視聴のみ）
- ・DVD「見付天神裸祭」輿番、舳番、神社・先供・保存伝承版 磐田市伝統文化活性化実行委員会（全館）
- ・http://hadakamatsuri.jp/ 見付天神裸祭保存会公式ウェブサイト
- ・http://mitsuke-tenjin.com/s-taisai.html 見付天神公式ホームページ「まつり」
- ・http://www.city.iwata.shizuoka.jp/midokoro/bunkazai/bun15.php 磐田市ホームページ

「磐田のみどころ・見付天神裸祭」

### ふはちまんぐう たいさい 府八幡宮秋の大祭

中泉にある府八幡宮は、奈良時代につくられました。寛永12（1635）年に建てられた楼門<sup>ろうもん</sup>は、県の文化財、中門・本殿<sup>ほんでん</sup>・拝殿<sup>はいでん</sup>・幣殿<sup>へいでん</sup>は、市の文化財に指定されています。秋の大祭は、毎年10月第1土・日曜日に行われます。大祭の1週間前の鮫島海岸での「浜垢離<sup>はまごり</sup>」、土曜日の例祭（祝詞と浦安の舞の奉納<sup>のりと うらやす まい</sup>）、夕祭（神様を神輿<sup>みこし</sup>に移す）、日曜日の発御祭（神輿の出発<sup>はつぎょさい</sup>）、命魚奉献の神事（生きた魚を境内の池に放す<sup>めいぎょほうけん しんじ</sup>）、神輿巡行<sup>しゅんこう</sup>などが主な神事です。神事とは別に、余興<sup>よきょう</sup>（楽しみ）として、土曜日の夜に各町内の山車<sup>だし</sup>（中泉では屋台のこと）の引き回しがあります。これは、江戸時代後期から行われています。



【磐田市ホームページより】

### 府八幡宮 秋の大祭について調べるには

- ・『府八幡宮ものがたり』（全館）p.32「第三章 お祭と年中行事」
- ・『遠州中泉お祭新聞創刊第20号記念誌』（中央・福田）
- ・http://www.fu-hachimangu.jp/info/info/abf 府八幡宮公式ホームページ「秋の大祭について」

### ろくしゃじんじやれいたいさい 六社神社例大祭

福田地区にある六社神社は、福田の氏神<sup>うじがみ</sup>（その土地を守る神）で、6体の海の神がまつられています。祭りの見どころは、神社で奉納される「浦安の舞<sup>うらやす まい</sup>」と、付け祭り（余興<sup>よきょう</sup>）として行われる屋台の引き廻しです。祭り2日目の夕方には中川通りに、「そらやれ」の元気な掛け声とともに、周辺地区あわせて23台もの屋台が集まります。現在は10月第2土・日曜日に行われています。



【磐田市ホームページより】

### 六社神社例大祭について調べるには

- ・『福田町史 資料編民俗』（中央・福田・竜洋・豊田）
- ・『福田町の史跡』p.1～2（全館）
- ・『福田町の歴史』（全館）
- ・『平成二十二年 六社神社御礼祭 奉納 浦安の舞』DVDもあり（福田）

### はちおうじ 八王子神社米とぎまつり

## 磐田市指定無形民俗文化財

福田地区の下太の氏神である八王子神社で行われる米とぎまつりは、江戸時代の元禄年間（1688～1703年）頃に、疫病除けを願って始まったと伝えられています。ふんどし姿の男たちが、神社西側の今之浦川で米をとぎ、それをふかしてかき混ぜ、神前に供える民俗行事です。また「お笹を借りる」といって祭り当日、境内に生えている笹を持ち帰り、1年間の疫病除けとして家の出入り口につるしておき、翌年の祭りの際にお返しするという風習があります。平成11（1999）年以前は1月15日に行われていましたが、現在は1月第2日曜日に行われています。



【磐田市ホームページより】

## 八王子神社米とぎまつりについて調べるには

- ・『福田町史 資料編民俗』（中央・福田・竜洋・豊田）
- ・『福田町の史跡』p. 8（全館）
- ・『福田町の歴史』（全館）
- ・DVD「八王子神社 米とぎまつり」（全館）

## なかのはくさんじんじやとおかさい 中野白山神社十日祭

## なかのはくさんじんじやれいさい 中野白山神社例祭

## 磐田市指定無形民俗文化財

福田地区の豊浜中野の氏神である中野白山神社で行われる十日祭は、以前は1月10日に行われていたことから、この名前がつけました。現在は1月第2日曜日に行われます。白山神社の代理(生き神様)となった盛松と呼ばれる3人の未婚の男性を中心に進められるので「盛松祭」ともいい、盛松が釈迦十六神善画像などを入れた3つの箱を持って地区を巡ることから「お箱さま」とも呼ばれています。

例祭は地区内から選ばれた人が、その年に収穫した新米から白酒（どぶろく）を作り神前に供えることから「どぶろく祭り」「白酒祭り」とも呼ばれています。現在は10月第1日曜日に行われています。

### 中野白山神社十日祭・中野白山神社例祭について調べるには

- ・『福田町史 資料編民俗』（中央・福田・竜洋・豊田）
- ・『豊浜中野の年中行事』（中央）
- ・『いわた文化財だより(合冊版) 第51号～第100号』（全館）



【磐田市ホームページより】

## かけつか 掛塚まつり

掛塚まつりは、竜洋地区の掛塚にある貴船神社の祭りです。「神輿の渡御（貴船神社の神輿が町内を回って、お仮宮までお出ましになり、再び神社に帰ってくる）」に続いて各町の氏子が屋台を引き、神輿のお供をして、町内をにぎやかに練り歩くところが祭りの見どころです。10月第3土・日曜日に行われます。

彫刻や天幕で飾られた豪華な屋台を、お囃子に合わせて引き回します。夜には、提灯が美しく灯ります。「掛塚祭屋台」は磐田市指定有形文化財、「掛塚祭屋台囃子」は静岡県指定無形民俗文化財になっています。

### 掛塚まつりについて調べるには

- ・『掛塚まつり』掛塚まつり冊子編さん委員会/編（全館・電子図書館）
- ・『掛塚まつり』掛塚まつり本部/編（全館）
- ・『竜洋町史 民俗編』p. 49～552（全館）
- ・『遠江の御船行事』p. 12～128（全館）
- ・DVD「掛塚祭屋台囃子」（竜洋）、CD「掛塚屋台囃子」（竜洋）



【磐田市ホームページより】

## しろわ たいさい 白羽神社大祭

竜洋地区の白羽にある白羽神社の祭りは、白羽神社からお仮宮へのお渡りの神事が行われ、その神幸行列に氏子が屋台を引いてお供をします。白羽神社の神輿は磐田市の有形民俗文化財となっています。この行列には子どもたちがかつぐ「御座船」や、「竹馬（天狗）」、「おかめ」などが参加します。

江戸時代後期に火事で祭礼道具が焼けてしまい、長い間神事が途絶えましたが、再び行われるようになり、それからは時代ごとに祭りの内容も変わってきました。現在は10月第2土・日曜日に行われています。

### 白羽神社大祭について調べるには

- ・『竜洋町史 民俗編』p. 553～561（全館）
- ・『遠江の御船行事』p. 129～140（全館）

## 池田やかた祭り 磐田市指定無形民俗文化財

毎年8月第1日曜日（雨天の場合第3日曜日）に豊田地区の池田で行われる池田やかた祭りは、古くから伝わる夏祭りで、川供養・厄流しを祈るものだとわれています。

「やかた」は、麦わらと竹、カヤで組み上げた大きな神輿のようなものです。やかたには、各家庭の願いごとが書かれたホオズキ提灯を飾り、これを男たちが川まで運びます。その後、天竜川本流までかつぎ入れ、そこで火を放って奉納者の願いを供養します。

### 池田やかた祭りについて調べるには

- ・『豊田町誌 通史編』p. 1328～1334（全館）
- ・『静岡県の祭ごよみ』p. 67～68（中央・福田・竜洋・豊岡）
- ・『ふるさと豊田写真集』p. 148（全館）
- ・「いわた文化財だより」第124号（全館）磐田市ホームページでも見られます



【『磐田市トラベルランク』p. 25より】

## わかみややはちまんぐう ごうしゃ さいてん 若宮八幡宮（郷社）祭典

豊田地区の森下にある若宮八幡宮（郷社）は、明治6（1873）年、現在の豊田と竜洋北部にあった28社の神社を統合してつくられました。

祭りは、豊田南部17地区で10月第2土・日曜日に行われ、17台の屋台が華やかに引き回されます。昔から相撲のさかなな土地柄であったことから、境内の土俵では奉納相撲が行われ、「郷社の相撲」として有名です。

### 若宮八幡宮（郷社）祭典について調べるには

- ・『静岡県の祭ごよみ』p. 95～96（中央・福田・竜洋・豊岡）
- ・『郷土研究資料 第3集 ふるさと豊田 改訂版』p. 259～261（全館）
- ・『豊田町誌 通史編』p. 628～630（全館）



【磐田市ホームページより】